

略歴書

小檜山 雅之 (こひやま まさゆき)

慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科 教授

博士 (情報学)、一級建築士



【専攻分野】地震工学、建築構造学

【本会活動】

国際委員会委員：2005年6月～2007年5月

脆弱建物の改修と人口集積地域の地震防災対策推進とその

方策に関する研究委員会委員：2005年6月～2006年5月

電子メディア委員会委員：2005年10月～2007年5月

電子広報委員会委員：2007年6月～2008年5月

国際委員会幹事：2008年3月～2009年5月

国際委員会委員：2009年6月～2011年5月

第16回世界地震工学会議誘致委員会委員：2012年4月～2012年11月

国際委員会委員：2013年6月～2017年5月

国際研究発表会実施委員会委員：2013年6月～2015年5月

理事 (情報担当)：2014年5月～2016年5月

情報コミュニケーション委員会委員長：2014年6月～2016年5月

阪神・淡路大震災20周年シンポジウム実行委員会委員：2014年6月～2015年1月

会誌編集委員会副委員長：2015年6月～2016年5月

第17回世界地震工学会議誘致委員会委員：2016年3月～2017年1月

論文集編集委員会副委員長：2017年6月～2019年5月

理事 (学術担当)：2019年5月～2021年5月

論文集編集委員会委員長：2019年5月～2021年5月

論文集編集委員会委員：2021年5月～2022年5月

理事 (16JEES 担当)：2022年5月～2024年5月

第16回日本地震工学シンポジウム運営委員会幹事長、総務・会場部会部会長：2022年5

月～2024年5月

【略歴】

1993年3月 京都大学工学部建築学科 卒業

1995年3月 京都大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程 修了

1995年4月～1996年3月 鹿島建設株式会社設計・エンジニアリング総事業本部原子力設計部

1996年4月～1999年3月 鹿島建設株式会社技術研究所 研究員

1999年4月～2001年3月 理化学研究所地震防災フロンティア研究センター 研究員

2001年4月～2005年3月 東京大学生産技術研究所 助手

2002年3月 京都大学博士 (情報学) 学位取得

2004年4月～2005年3月 日本学術振興会 海外特別研究員

2004年4月～2005年3月 スタンフォード大学 客員准教授 (工学部土木・環境工学科)

2005年4月～2008年3月 慶應義塾大学 専任講師 (理工学部システムデザイン工学科)

2008年4月～2016年3月 慶應義塾大学 准教授 (理工学部システムデザイン工学科)

2016年4月～ 慶應義塾大学 教授 (理工学部システムデザイン工学科)

【受賞】

- ・ 中国成都市人民政府四川大地震都江堰市復興グランドデザイン「都江堰市復興計画設計名誉賞」（東京大学・慶應義塾大学・中国西南交通大学合同チーム，代表者：東京大学石川幹子教授・慶應義塾大学厳網林教授，2008年7月）
- ・ 日本建築構造技術者協会法人化20周年記念大会「アイデアコンペ発表会2009」入賞（アルマザン・ホルヘ，小檜山雅之，豊原由希恵，円谷彩永子，高岡陽子，2009年9月）

【委員会活動(直近5年間)】

- ・ 日本建築学会 住まい・まちづくり支援建築会議 情報事業部会 委員 (2012年6月～)
- ・ 日本建築学会 荷重運営委員会 幹事 (2017年4月～2021年3月)、委員 (2021年4月～)
- ・ 日本建築学会 荷重運営委員会 信頼性工学応用小委員会 幹事 (2017年4月～2021年3月)、委員 (2021年4月～)
- ・ 日本建築学会 振動運営委員会 構造物の振動制御小委員会 委員 (2017年4月～)
- ・ 日本建築学会 特別調査委員会 建物のレジリエンスとBCPレベル指標検討委員会 幹事 (2017年4月～2020年3月)
- ・ Local Organizing Committee Member of the 7th Asian-Pacific Symposium on Structural Reliability and its Applications (APSSRA 2020) (2018年4月～2020年12月)
- ・ Task Group Member of Future Direction Sessions of the 17th World Conference on Earthquake Engineering (17WCEE) (2018年10月～2021年10月)
- ・ 日本建築学会 技術報告集委員会 委員 (2018年6月～2020年5月)
- ・ 日本建築学会 企画運営委員会 レジリエント建築タスクフォース 委員 (2019年10月～2021年9月)

【著書および主要論文(代表的なもの10編以内)】

- ・ 小檜山雅之，ホルヘ・アルマザン，紙田和代：都市・建築レジリエンスデザイン入門，慶應義塾大学出版会，2020年
- ・ 日本建築学会編（共著）：建築物荷重指針・同解説(2015)，日本建築学会，2015年
- ・ 日本建築学会編（共著）：地震リスク評価とリスクコミュニケーション，日本建築学会，2011年
- ・ 日本建築学会編（共著）：Excelで学ぶ地震リスク評価，技報堂出版，2011年
- ・ Kohiyama, M., Yokoyama, H., and Maki, S.: Torsional response of a bisymmetric structure induced by bending-torsion interaction in vertical members, *Japan Architectural Review*, Vol. 5, No. 1, pp. 3-19, 2022.
- ・ Kohiyama, M., Oka, K., and Yamashita, T.: Detection method of unlearned pattern using support vector machine in damage classification based on deep neural network, *Structural Control and Health Monitoring*, Vol. 27, No. 8, e2552, 23 pp., 2020.
- ・ Kohiyama, M., Omura, M., Takahashi, M., Yoshida, O., and Nakatsuka, K.: Update of control parameters for semi-actively controlled base-isolated building to improve seismic performance, *Japan Architectural Review*, Vol. 2, No. 3, pp. 226-237, 2019.
- ・ Kohiyama, M. and Yokoyama, H.: Torsional Response Induced by Lateral Displacement and Inertial Force, *Frontiers in Built Environment*, Vol. 4, Article 38, 12 pp., 2018.
- ・ Kohiyama, M., Kiremidjian, A. S., Meguro, K., and Ohara, Y. M.: Incentives and Disincentives Analysis for Improving Policy for Seismic Risk Management of Homeowners in Japan, *Natural Hazards Review*, Vol. 9, No. 4, pp. 170-178, 2008.
- ・ Kohiyama, M., Hayashi, H., Maki, N., Higashida, M., Kroehl, H. W., Elvidge, C. D., and Hobson, V. R.: Early Damaged Area Estimation System Using DMSP-OLS Night-Time Imagery, *International Journal of Remote Sensing*, Vol. 25, No. 11, pp. 2015-2036, 2004.

【所信】

1995年兵庫県南部地震以降、10名を超える人命が失われた地震は、2004年新潟県中越地震、2007年新潟県中越沖地震、2008年岩手・宮城内陸地震、2011年東北地方太平洋沖地震、2016年熊本地震、2018年北海道胆振東部地震、2024年能登半島地震と7つにのぼります。とくに地方都市での地震災害は人口流出を加速させており、日本の将来のありかたを考える上で地震防災は切り離せない課題になっているといえます。加えて、トルコ、台湾、インド、アフガニスタン、イラン、インドネシア、パキスタン、中国、ネパールなどアジアの国々をはじめ、世界諸国で大きな地震災害が頻発しており、日本の教訓を世界に発信し、地震防災に役立てることが期待されています。

そのような中、日本地震工学会はさまざまな学術分野で取り組まれている地震工学・地震防災研究をつなぐ学術コミュニティのハブ、そして最新の学術的知見を一般市民に紹介し社会への実装を進めるリエゾン役として、重要な役割を果たしてきました。日本地震工学会論文集では、進化する災害の様相に対応するため、広い分野を横断した領域の学術論文や様々な分野の研究者が協力して取り組んだ学術論文が発表され続けています。また、市民向けのシンポジウムや震災予防講演会など、地震防災意識の啓発のため、息の長い活動も展開されています。海外との連携に関しても、大会や日本地震工学シンポジウムでの国際セッションの実施や海外の地震工学関連学会と協定を結ぶことが行われています。

日本地震工学会が今後も上記の役割を果たすためには、社会の複雑化や状況変化に対応した研究や普及活動を展開して常に技術をアップデートすること、情報分野などこれまでつながりが太くなかった分野とも連携を推進すること、そして活動を持続するため、後進の育成に力を入れることが大切であると認識しています。

監事として選出されましたら、社会から日本地震工学会に寄せられる信頼と期待に応えるため、これまで研究委員会、国際委員会、広報関連委員会、論文集編集委員会、理事会での活動や、日本地震工学シンポジウム・国際会議の運営などで得た経験を活かし、学会の活動・運営を真摯にサポートしてまいりたいと思っております。

以上